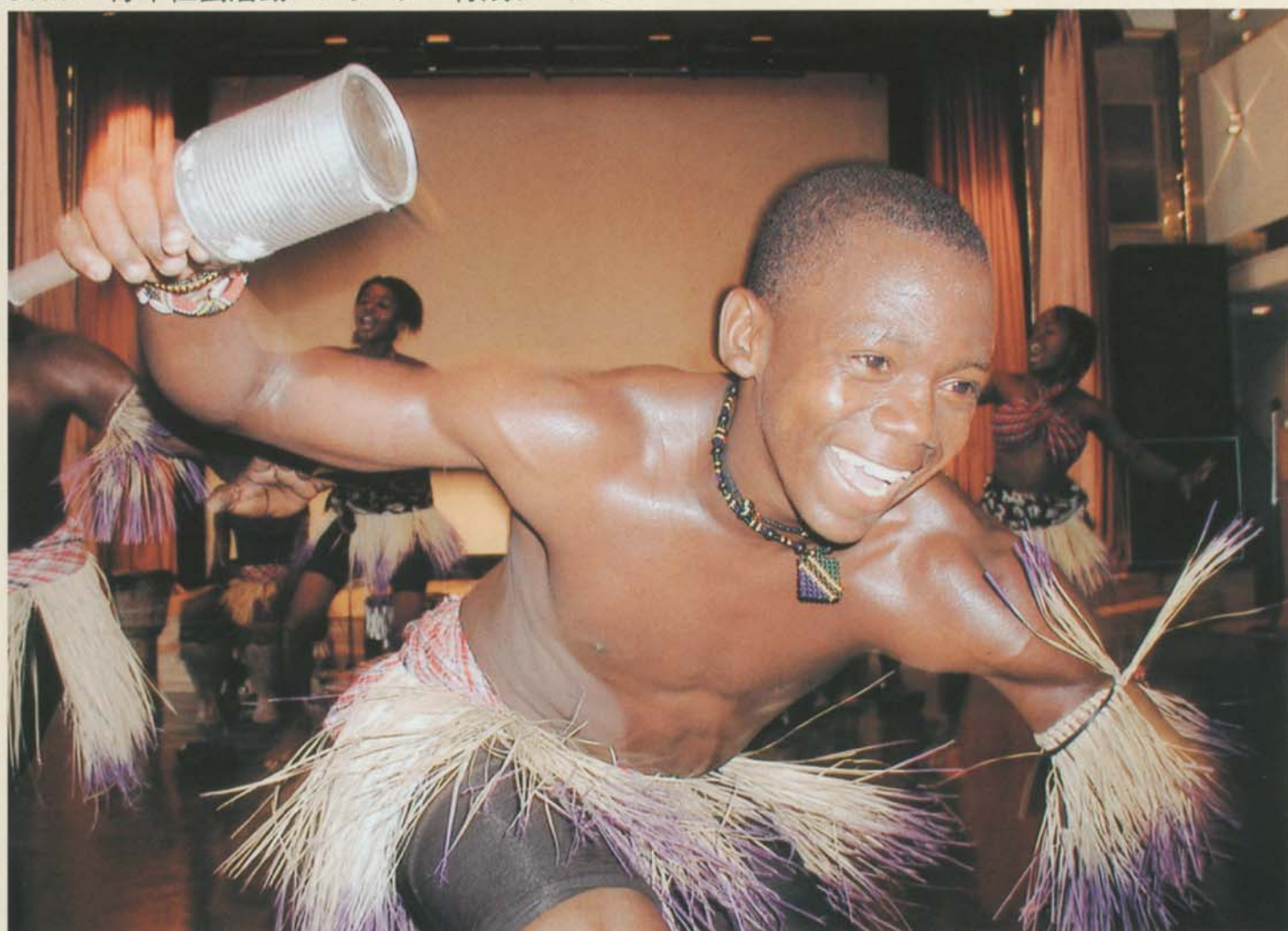


国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

◎特集 青年社会活動コアリーダー育成プログラム

マクロコズム 2004.5



vol. 58

(財)青少年国際交流推進センター

オープニング



▲ フィンランド団

山本信一郎内閣府政策統括官
による挨拶



ニュージーランド団

オランダ団



▲ 青少年健全育成青少年企画担当
田中参事官補佐

〈行政官による講和〉



◀ 高齢社会対策担当調整担当
成田参事官補佐



▲ 障害者施策担当企画担当
後藤参事官補佐

「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」は、平成14年度から実施された新規事業です。平成15年度は、フィンランド（障害者分野）、オランダ（高齢者分野）、ニュージーランド（青少年分野）への派遣とこれら3か国から3分野の活動家の日本への招へいが行われました。日本での招へいプログラムは、東京においては分野を越えたフォーラムが実施され、地方旅行では分野毎にプログラムが組まれました。受入県では、各分野の専門に対応した訪問先が設定されるとともに、内容的にも懇談や意見交換の時間がより多く組み入れられ、まとめのセミナーも実施されました。

～高齢者、障害者、青少年分野の
青年リーダー育成を目指して～

高齢者分野 (和歌山県)



▲ 高齢者政策について担当からの説明を受けている様子



▲ 地方セミナーにて、地元日本参加者とディスカッション

▼ 社会福祉法人皆楽園にて施設内見学の様子



▲ シルバー人材センターにて、地域の高齢者の方から学童保育を受けている子供たちの歓迎を受ける

(目的) 活力ある「共助」の社会を築いていくためには、地域住民やNPO等のボランティアの社会活動の充実が必要であり、今後、社会参加の裾野を広げ、ボランティア同士の連携を図ることにより、様々な分野で社会活動を拡大しつつ分野をまたがる総合的な取組を進めていくことが重要である。そのためには、活動の中心的担い手となるリーダーの養成が急務であるが、我が国においては、まだその体制が整っていない状況にある。本プログラムは、このような観点から、社会活動の青年コアリーダーの能力の向上とネットワークの形成を図るものである。

青年社会活動コアリーダー育成プログラム(地方プログラム)

障害者分野 (静岡県)



◀ 県立中央養護学校を視察

雲仙普賢岳観光復興記念館を訪
問し、島原ボランティア協会の
皆さんと交流



▶ ボランティアセミナーにて、長崎県
の11のボランティア団体のリーダー
が集まり意見交換を行った



▶ 歓迎レセプション



▲ NPO法人自立生活センターアシストMILの方々との懇談

青少年分野 (長崎県)



▲ ボランティアフェアにて、3か国の青少年活動紹介ブースとステージ発表を行う

～世界にひとつだけの花～

静岡県受入実行委員長 天野 清美

『世界にひとつだけの花』は、SMAPのヒット曲名ですが、私たち静岡県受入実行委員会のキーワードとなりました。

2004年2月3日から6日間、ニュージーランド、フィンランド共和国、オランダ王国の青年13名が静岡へ滞在しました。『障害分野関連活動の社会活動について知識、または技能を有する青年』ということで、静岡では、県立中央養護学校で生徒との交流会を行ったり、「ワーク春日」・自立生活センター「アシストMIL」・介助派遣事業所「ピアシップみしま」を訪問し、障害を持つ方の地域生活の現状やサポート内容を紹介してもらいました。また、自立生活（病院や施設ではなく地域に住む）をしている身体障害を持つ方の家庭を訪問し、夕食を食べながら交流するホームビジットプログラムや、宿泊をするホームステイ、ディスカッションやセミナーなどを行いました。

この静岡滞在の受入を静岡IYEOメンバーが中心となり、受入実行委員会を作り準備をしまし

た。最初に静岡で受入れると決まったときは、「やってみたい」という気持ちもありつつ、「本当に私たちでできるの??」という不安が大きかったのを覚えています。

しかし、多くの準備があったにも関わらず、ほとんどの人が仕事をしながらの中で、結果として「私たちでも受入れすることができた!」のです。

ホームステイ先捜しに追われたスタッフ、資料の作成、ホテル・レストラン捜し、通訳手配、翻訳、膨大なメールのやりとりなどを遅くまで作業したスタッフたち、送別レセプションで玉すだれを披露したメンバーたち…そして、もちろん実行委員のメンバーだけでなく…ホームステイ・施設訪問を受入れてくださった方々、写真を届けにホテルまで来てくださった養護学校の先生、笑顔で迎えてくれた子供たち、ホームビジットプログラム全てを担当してくださった団体の方々…あげていけばキリがありませんが、今回のプログラムに関わった全ての人が、それぞれができることをや

主 要 内 容

～世界にひとつだけの花～……………5～6	絵本『やさしい木の下で』……………12
（財）青少年国際交流推進センター	第7回「青年の船」30周年の集い……………13
設立10周年……………7～8	SWYAAインターナショナル・リユニオン…14
日本青年国際交流機構20周年に向けて……………9	募集（第8回「青年の船」30周年大会…15～20
日本青年国際交流機構新役員について	ヤング・リーダーズ・フォーラム／
……………10～11	ブロック大会など）

〈表紙の説明〉

第16回「世界青年の船」
タンザニアにて

り、このプログラムをみんなで作りあげていきました。

そして今回、ひとりひとりが小さな『花の絵』を描き、1枚のお花畑の絵をみんなで作ろう！という『世界にひとつだけの花』企画（ひとりひとりの小さな力が集まって、この大きなプログラムを作り上げていくことをイメージ）を行いました。

【(参加呼びかけチラシより) コアリーダー育成プログラムというイベントを通して、私たちは出会うことができました。この大きなプログラムに参加したメンバーで、ひとつの作品を作りたいと思います。ぜひ小さな丸い円の中に『花の絵』を描いて、サインをしてください。絵の上手い下手は全く関係ありません。描かれた花の絵は、世界にひとつだけの花♪です。いろいろな個性のある花々が集まってひとつの作品(花畑の絵)ができあがります。】

実行委員ひとりひとりが、チラシとシールを持ち歩き、花の絵を集めました。フィンランド派遣メンバーは、フィンランドまでシールを持ってい

き、描いてもらってきました。参加外国青年が静岡に到着した際には、Welcomボードとして掲げ、バスから降りてくる青年を出迎えました。歓迎レセプション、養護学校訪問、ホームステイの各家庭、セミナーの会場で、少しずつ花が増えていきました。もちろんフィンランド、オランダ、ニュージーランドの青年たちも参加しました。国も年齢も様々です。共通しているのは、このコアリーダー育成プログラムに関わり、この大きなプログラムを一緒に作りあげていったメンバーであるということです。

プログラムは終了しましたが、私たちの手にはこの作品と、準備を通じて知り合うことのできた人々との繋がりが残りました。

『それぞれの個性を大切に、ONLY ONEを目指すことで、誰にとっても住みやすい偏見のない世界になっていくと信じています。

～遠く離れた所に住んでいるけれど、私たちはこの作品を通じてつながっています～

(参加青年への Thank You カードに書かれたメッセージより)』



財団法人青少年国際交流推進センターは、平成6年4月21日設立され、この4月で満10年を迎えました。4月23日に、東京都千代田区の「ルポール麹町」で、約70名の関係者による10周年記念懇談会が開催されました。その席での山田馨司理事長の冒頭の挨拶を紹介させていただきます。

財団法人青少年国際交流推進センター設立10周年を記念する懇談会における理事長挨拶（要旨）

本日は、皆さま御多用の中、(財)青少年国際交流推進センター設立10周年を記念する懇談会にご出席いただき、まことにありがとうございます。この懇談会が、青少年国際交流推進センター10年の歩みを振り返り、これからの10年を展望する機会になれば幸いです。

平成6年に職員2名で発足し、現在の職員数は8名になっています。また、事業規模は、約3倍になっています。この間の最も大きな変化は、内閣府からの委嘱業務の拡大です。

1. 交流事業の企画、実施
2. 内閣府（平成13年度以前は総務庁）の実施する青年国際交流事業への協力（委嘱業務を含む。）
3. 青少年国際交流に関する啓発及び研修
4. 青少年国際交流に関する出版物の刊行
5. 青少年国際交流に関する情報収集及び調査研究（委嘱業務を含む。）
6. 青少年国際交流に関する支援、コンサルティング

の6つに分類していますが、このうち1及び2ないし6の項目は、年によっていくらかの増減はありますが、ほぼ同じような水準で推移しています。2の「内閣府の実施する青年国際交流事業への協力」については、着実に業務が増加し、平成6年度は、「国際青年育成交流事業の外国青年受入れ」及び(2)の「世界青年の船の外国青年の課題別視察」の2項目だったのが、平成9年度に、大小合せて、11項目、平成13年度以降は15項目以上になっています。これらの項目の中には、

- 「内閣府の交流事業で来日した外国青年の受入れプログラムの企画、実施」のように、従来政府直轄であった事業の一部を委嘱されたもの。
- 「既参加青年事後活動会議の開催」のように従来政府とIYEOとの協力によって行われていた事業の一部を委嘱されたもの。
- 「世界青年の船事業事後活動連携強化プログラムの企画、実施」のように国際的連携活動を促進する目的で企画されたもの。
- 平成7年度の「戦後50年を記念する集い」や平成10年度の「東南アジア青年の船第25回記念事業」のように1回限りの行事への協力。



▲ 今年度のスタッフ体制はこんな顔ぶれです

などいくつかの種類があります。このうち、内閣府の青年国際交流事業で来日した外国青年の受入れプログラムについてみると、平成15年度の場合、次のようになっています。

7事業で、のべ58か国から、のべ697名の外国青年が来日しました。

(財)青少年国際交流推進センター設立10周年

東京プログラムでは、通常、これらの外国青年の希望や関心に基づいて、いくつかのグループに分け、課題別視察や都内見学をしますが、平成15年度の場合、のべ50コースになりました。

各コースには、通訳を兼ねた案内役として、IYEOの会員を中心としたボランティアが数人ずつ同行しますので、これに協力していただいた東京プログラムのボランティアだけで、のべ200人以上になります。また、すべての事業で「地方プログラム」がありますが、平成15年度の場合、のべ35の道府県市の御協力をいただきました。地方プログラムでは、行政の担当者のほか、ホームステイに協力してくださる御家庭の皆様はじめ多くのボランティアのお世話になりました。

これら多くの方々の御協力、御支援のおかげで、政府の期待と信頼に応えられる国際交流プログラムの企画、実施ができ、政府からの委嘱業務が増え、当センターの組織、陣容が充実、発展してきたわけで、設立10周年にあたり、改めて、関係者の皆さんに心から感謝申し上げます。

当センターにとって、もう一つ重要なのは、IYEO（日本青年国際交流機構）との関係です。当センターは、IYEOの本部事務局をサポートするとともに、全国のIYEOの事後活動を支援する立場にあります。これまで、各都道府県のIYEOに対し、

- 新参加青年の壮行会、報告会は必ず開催しよう。 ○国際交流事業を何か企画し、実施しよう。
- 内閣府の受入れ事業に協力しよう。 ○関係行政機関や関係団体と連携しよう。

などと呼びかけ、側面から支援することにより、ブロック大会や全国大会も年々順調に、盛大に実施されるようになりましたし、活動奨励金の申請団体数も、平成6年度の22府県から平成15年度の37都道府県に増えました。このようなIYEOの全国各地での地道な活動があってはじめて、当センターが、政府からの委嘱業務を引き受けることができるのです。

もう一つ、IYEOの大切な機能として、海外の同窓会組織との連携があります。内閣府の交流事業のプログラムを、船の寄港地など海外で、充実した内容で円滑に実施する上で、各国の同窓会組織の積極的な協力が欠かせないことは、皆様も御承知のとおりです。

内閣府の青年国際交流事業は、1959年以来途切れることなく継承され、発展してきました。その理由の一つが事後活動組織としてのIYEOの活動にあることは言うまでもありません。十分な事後活動を伴わない交流事業は、国の事業として生き残ることはできないでしょう。IYEOの事後活動が内閣府の青年国際交流事業を支え、内閣府の青年国際交流事業がIYEOの事後活動を支える。この相互作用の触媒としての役割を、当センターが十分果たしてきたかどうか、今、10年目に、問われていると思います。皆さんの評価はいかがでしょう。

以上は、当センターの過去10年の歩みですが、これから歩む方向を考えると、一公益法人として、「内閣府の青年国際交流事業とIYEO」の枠内にとどまればかりはられないのではないかと感じています。交流活動で身につけた国際感覚と国際的視野を持ち、世論をリードできる青少年が日本全国至るところで育つには、どうしたらよいか。何ができるか。皆様の御指導、御支援をお願いいたしまして、御挨拶といたします。ありがとうございました。

おかげさまで

I Y E O 設立 20 周年！

昭和 60 年 4 月に「日本青年海外派遣青友会」および「青年の船の会」が統合して発足した「日本青年国際交流機構」(IYEO) は、来る平成 17 年度に、「成人の年！」という節目を迎えようとしています。

日本青年国際交流機構役員及び各都道府県会長一同は、この記念すべき通過点を契機として、これまでの歴史を振り返り、諸先輩方の努力や御苦勞に感謝するとともに、国際的日本人としての自覚と交流事業で得た貴重な経験を、地域社会における国際交流活動の推進に活かしていきたいと考え、去る 2 月の全国推進会議におきまして「IYEO 設立 20 周年記念事業検討委員会」を設け、今後 2 年間の活動提案を行っていくことを決定しました。

私たちは、平成 16、17 年度の 2 年間で「20 周年記念事業年間」と位置付け、組織や活動内容の更なる充実を図るとともに、国際化時代にふさわしいリーダーの育成を目指します。

マクロコズム誌上 記念事業紹介リレー

各都道府県での活動を中心に 20 周年記念事業はスタートします。

今後、当欄「I Y E O 2 0 周年記念ページ」にて事業計画・実施報告等をリレーでお知らせしていきたいと考えています。

また、おもしろい(個性的な)イベントや活動をしている I Y E O 組織や人物にもスポットをあてて紹介していきたいと思えます。

20 周年記念事業に対します御意見、御提案がありましたら、下記までお寄せください。

日本青年国際交流機構 I Y E O 設立 20 周年記念事業検討委員会
(電話:03-3249-0767 FAX:03-3639-2436 E-mail:hq@iyeo.or.jp)

ごあいさつ

日本青年国際交流機構

会長 田中 南欧子

酒井洋幸前会長の後をお受けし、4月より会長を務めさせていただくことになりました。

私が全国に展開する大きな事後活動組織である日本青年国際交流機構の会員として、改めて本格的に組織活動に参加するようになったのは、1995年に第22回「東南アジア青年の船」のナショナルリーダーとして再び「にっぽん丸」に乗船した時からです。当時、私は岡山県に住んでいましたので岡山のIYEOにお世話になりました。1980年に初めて参加青年として第7回「東南アジア青年の船」に乗ってからずいぶん年月がたっていましたので、とても新鮮な気持ちで改めて取り組めた気がします。現在は、茨城県に住み茨城IYEOのメンバーとしても楽しく活動しています。

ところで、長崎の出島に生まれ、幼い頃より東京、新潟、横浜、宇都宮、岡山、茨城といろいろ土地に移り住みましたが、英国での1年間の生活も自分が外国人として暮らすという貴重な経験になりました。私が物心ついて「最初の国際交流はいつ?」と思い出してみると、それは1964年の東京オリンピックです。今年はちょうどアテネで開催されますが、今からもう40年も昔のこと。当時私は、東京の国立競技場のすぐ近くにある新宿区立四谷第六小学校の1年生でした。幼心に英語で外国の人と話してみたいと初めて思いました。開催中は校舎から競技場の燃える聖火を見ていた記憶があります。あの頃一生懸命いくつも国の名前を覚え、「ぼくらのオリンピック」という学芸会の劇で使う国旗を手作りして世界が広いことを知り始めました。これが私の国際交流の原点です。数年前、「東南アジア青年の船」の小学校視察にアセアンの青年達を引率して偶然母校を訪れる機会があり、大変懐かしく感慨深かった思い出があります。

さて、IYEOとはどのような組織なのでしょう?これから何ができるのでしょうか?

会長という大役を担った今私にできることは…?と改めて考えてみましたが、新役員の皆様、都道府県の会長始め役員の皆様との親密なコミュニケーションから始め、それぞれの地域の活動の状況を正確に把握しつつ、会員の方々と経験を共有していきたいと思えます。

内閣府並びに財団法人青少年国際交流推進センターの皆様の御理解と御協力を得ながら、全国の会員の方々と共に楽しく魅力ある活動を続けていきたいと思えます。今年は、IYEOが設立して20年目の節目の年です。今まで活動を支えて来て下さった先輩の方々、毎年新しく仲間に加わって新しい力を与えて下さる若いメンバーの皆様と共に歩んでいきたいと思えますので、どうぞよろしくお願ひします。



退任にあたって

日本青年国際交流機構

前会長 酒井 洋幸

IYEO 会長という大任を、各県会長さんをはじめとして役員の方々の支えを得て、6年間勤め上げることができたことを、まずお礼申し上げます。

この間、私が関西に在住しているという関係から、東京での多くの行事には、満足に参加できないこともあり、特に事務局の皆さんにはずいぶん助けていただきましたことに感謝申し上げたいと存じます。

さて、この6年間何ができたか、何をしたかを振り返ってみたとき、私自身の力のなさを改めて感じざるを得ないことばかりだったような気持ちがいたします。ただ、実績らしいこともない中で、IYEO 活動を「顔と顔が見え、地域に視点を置いて」展開していただきたいということは、常々申し上げていました。このことについては各地会員の皆さんの努力で、地域で特色ある活動に結びついた例が数多く示され、成果となって現れていることは嬉しいかぎりです。

この方向を、より進展させていただき地域で地に足をつけた活動を展開いただくためには、車の両輪のような関係で活動を支えていただいている、今年で10年を迎えられる財団法人青少年国際交流推進センターの皆様のご存在は忘れることができません。

今後は、地域活動をより充実させ、地域の国際化にいっそう貢献できる IYEO になるよう願うところですが、幸いなことに国際派として名実ともに力量を備えられた、田中新会長にバトンをお渡しすることになりました。素敵なお任せできることを喜ぶとともに、皆さん方にとっては新会長とともに、是非とも夢と活気のある IYEO を創りあげていただけることをお願いし、退任に当たっての挨拶といたします。

ありがとうございました。

日本青年国際交流機構役員名簿 (任期:平成16年4月1日～平成18年3月31日)

役職	氏名	
会長	田中南欧子	
副会長	大橋 玲子	
"	佐藤 周一	
"	中野 智昭	
"	大河原友子	
"	小田 長子	
ブロック幹事	北海道・東北	佐藤 恵一
	関東	渡辺 英明
	北信越	田中 克宜
	東海	鈴木 伸彦
	近畿	松本 仁孝
	中国	林 亜有子
	四国九州	知田 芳彦 上杉 聖次

役職	氏名
事務局長	酒井 昇
事務局次長	野村 隆紹
"	本田 温子
幹事	齋藤 珠恵
"	大久保信一
"	藤本 和子
"	久保 直子
"	矢口 稔
監査役	焼野嘉津人
"	椿 景子

役職	氏名
顧問	寺下 英明
"	奥野 照義
"	坂田 清一
"	大森 充
"	酒井 洋幸
参与	大谷 直義
"	三浦 博史
"	小塚 昭郎
"	森田 正英

絵本『やさしさの木の下で』

豊岡 陽子

(第12回青年の船参加)

青年の船を降りて、すぐ、その仲間と縁があり、遠く嫁ぐ事になりました。3人の子供も生まれ、忙しいながらも人並みの家庭生活を送っていた10年目、或る日突然次男が小児がんになりました。とても遅く兄弟の真ん中で鍛えられ、性格も頑固で雑草のような子供でした。そんな「僕」(絵本の中でそう表現しました)が小学1年生の時、突然右腕にコブのようなものができました。痛くも何ともなく、近くの病院に何軒か連れて行きましたが、「大丈夫ですよ。」と言われ、安心していました。ところが、いよいよそのコブが大きく固くなり、大学病院に行った時はすでに遠隔転移。告げられた病名が「小児がん」でした。

地獄のどん底でした。子供を失ってしまうかもしれないという恐怖は、私達夫婦を苦しめ、息をするのも苦しい、何を見ても涙が出てくる…という日々を過ごしました。

そんな中、助かるかも知れない…という治療に出合い、田舎から東京のがんセンター病院に転院する事になりました。骨髄移植後、再発を2回繰り返し、小学1年生から6年生までがんセンターで過ごすという、長い日々の始まりでした。

つらい治療に勝ち抜くためには本人の頑張りはもちろん、家族の応援が必要でした。まさに青年の船で経験したバイタリティーを発揮する時でした。泣いてはいられない、くじけてはダメだの気持ちで母親の私は田舎を出て、東京にアパートを借りる事にしました。2年ほどその生活を続

けたあと、親の会を作り、アパート代の高さや看病後一人アパートに帰る寂しさを何とかしたいと思い、「遠隔地から来る付き添いの家族のための宿泊施設」を作ろうと運動を始めました。シンポジウムを開いたりアンケートを作ったりしているうちに運動はどんどん拡がり、それは「ファミリーハウス」と名をかえ、心暖かい方々の協力で今や低料金で安心して泊まれる「家」が全国の病院にできる様になりました。「僕」もおかげ様で今年22歳の大学生です。

今回、御紹介したいのは、そのわが家の歴史とファミリーハウスのことを描いた絵本です。原稿は私が実体験そのものを書きました。英訳付きのとても可愛い素敵な絵本です。誰もが、いつ家族が病気になるかもしれない、その時安心して看病できるためのファミリーハウスをこれからもどんどん全国にひろげていくために皆さんの御理解と御協力をぜひよろしくお願い致します。

絵本題名『やさしさの木の下で』

ぼくと病気とファミリーハウス

自由国民社発行 1,600円

(文) くすもとみちこ (ペンネーム)

(絵) うえだいずみ

NPOファミリーハウス

<http://www.familyhouse.or.jp/>

〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-19

電話 03-5825-2931 (事務局)

Fax 03-5825-2935

郵便為替口座 00180-1-654419

*絵本の売上はNPOに寄付されます。

「第7回青年の船 30周年の集い」を終えて

おこしやす京都へ！お待ちしております～の案内発送から4か月半、2004年2月14日(土)午後、京都タワーホテルにひと昔前の青年達79名が集いました。記念写真の後「青年の船の歌」のBGMが流れる中をテーブルに着席。最初に物故者への黙祷を捧げた後、世話人代表から歓迎の挨拶、続いて椎名副管理官から数々のエピソードを交えたスピーチの後、笠見教官による乾杯で開宴。今回健康上の理由で不参加の真下管理官、にっぽん丸中村パーサー、第8回鷲尾管理官及びIYEO酒井会長などからのお祝いメッセージの披露。暫くテーブル毎に歓談が続く中、宴半ばからマイクを廻し全員が自己紹介を兼ねた一言スピーチの時間。佐賀から参加のメンバーは今秋のIYEO全国大会へのお誘いを熱烈アピール、又娘さんが今世界青年の船に乗船中とのコメントには一同から垂涎のため息など。3時間を30分超過する盛り上がりの中、次期開催を東北で2～3年以内にと決定、受諾の挨拶をされたメンバーに万雷の拍手。最後は鹿児島島のメンバーが持参した懐かしい写真をスクリーンで見ながら全員で「青年の船の歌」を声高らかに大合唱して一先ず閉会。

用意された二次会会場にはバレンタインデーにちなんでのチョコレートや各地の地酒・名産品等も加わり、時の経つのも忘れて気分はすっかり30年前に。「広い海、広い空、広い心の結びつき」のテーマのもと共に過ごした56日間の固い絆は現在も脈々と引き継がれていることを実感。

今回の世話人は関西在住の有志で構成され、各人の分担に応じた役割をこなすと共に“参加者に満足し喜んでもらえる為に”を合言葉に1年4か月、本当によく頑張ったと思います。30年経過した今も尚当時のOMとメール交換している渉外団員や地域での国際交流活動に携わっているメンバー等、30年前の若木は根を張り大きな大木に育っています。

最後になりましたが、IYEO、回生を超えて御協力頂いた京都の5回生奥西氏、そして無理難題にも全てOKでサポートして頂いた京都タワーホテル等関係方面の方々の多大なる御尽力に改めて感謝申し上げます心より御礼申し上げます。

残念ながら今回参加できなかった方、次回東北での再会を楽しみにしましょう。

世話人 速水 義秋 (29班)



◀ 京都タワーホテルにて

「世界青年の船」インターナショナル・リユニオンinタンザニア

第14回「世界青年の船」参加青年 稲葉 信二

3月8日～12日の日程で、第16回「世界青年の船」の寄港地であるタンザニアにおいて、「世界青年の船」の既参加青年代表者会議（インターナショナル・リユニオン）が開催されました。これは、開催国同窓会組織と協力して、内閣府の支援のもとにIYEOが主催して行っているリユニオンです。今年は、タンザニアを開催国として実施され、日本から5名、海外から4名の参加者と共に、IYEO国際担当幹事の齋藤珠恵さんと、私が近畿ブロックの推薦を受けてスタッフとして派遣されました。またタンザニアの既参加青年9名も参加されました。

リユニオンでは、バガモヨ地方視察、にっぽん丸船上でのSWY16参加青年との音楽ワークショップや副大統領表敬訪問、孤児院、識字学校訪問、音楽グループOYA Theatreの練習風景見学などが行われました。詳しい内容はSWYAAのホームページをご覧ください。（www.swyaa.org→ Reunion→ Reunion in Dar es Salaam, TanzaniaのReport）

日本からの参加青年の感想からも非常に充実したリユニオンであったと感じます。

○参加のリユニオンは、毎日が楽しく刺激的で充実していた。回を越え、国を越え、世界船のつながりの素晴らしさに感動した。世界船仲間で作られられた空間は、懐かしく、また新鮮で、心地よかった。

○全ての人との出会いが刺激に満ちた旅だった。

Tanzaniaの既参加青年からは心づくしのもてなしを受け、最高に楽しい時を過ごせた。各国、各回生から集結した既参加青年も皆魅力的な積極行動派。観光や交流と一緒に楽しむことで、私は自分が明るくオープンに変わっていくのを感じた。企画と出会いに感謝。今後も交流を広げていきたい。

○港にゆっくりと入ってくるにっぽん丸を見たときは胸がいっぱいになりました。初めてリユニオンに参加しましたが、新しいステキな出会いがたくさんありました。今年から孤児院訪問など社会貢献的な内容もプログラムに含まれるようになり、「世界青年の船」の広がりを感じました。みなさんもぜひ参加してみてください。

○今回のタンザニアリユニオンは僕にとって初めてのアフリカ大陸ということもあり、ドキドキしながらの参加でした。実際に参加してみると期待以上の感動に出会うことができました。心に残る時間を過ごせて嬉しかったです。

感想にもあるように、今回リユニオンでは初めて孤児院など訪問し、事前に集めた縦笛などの楽器をプレゼントすることもできました。また、私たちがこういう場所を訪問することを知ったSWY16参加青年からも、チョコレートを寄付して頂きました。単に、交流を深めるだけのリユニオンでなく、社会貢献性のあるものと現参加青年にも認識してもらえ、事後活動の例としても良い

内容なので、今後のリユニオンでも続けていってほしい活動です。また私自身も、音楽ワークショップで指導して頂いた OYA Theatre との出逢いは忘れられません。彼らは東アフリカのコンクールで1位に輝いたようですが、生活状況は苦しいようです。しかし、自分たちの芸術を通してタンザニアの人々の意識を変え、少しでも文化や伝統に興味を持ってもらおうとしている彼らの目は本当

に輝いていました。彼らの活動の少しでもサポートできればと思い、趣味である写真をポストカードにして寄付を集めることにしました。

リユニオンを通してまた新しい出逢いがあり、「世界青年の船」ネットワークのすばらしさを改めて実感しました。今後の活動にも是非この経験を生かしていきたいと思えます。

第8回「青年の船」30周年記念大会のお知らせ



昭和49年12月雨の中、晴海を出航してから30年の月日が経ちました。この間、私たちは毎年8回生の集いを開催、北海道から九州まで、全国25都道府県（東京は5年毎）になりました。団員たちは、各自、職場、地域、家庭で船の成果を活かして活動を続けるとともに、当時乗船したOMとも友好の輪を広げております。ニュージーランドの首相であるヘレンクラーク（第8回青年の船OM）さんから毎年クリスマスカードをいただいています。（本文上の写真が昨年いただいたカードです。）

このたび記念すべき節目の年を迎えるにあたり、これまで以上の多数の仲間が一堂に会することを希っています。万障お繰合わせの上、御家族ともども御参加ください。

期 日：平成16年8月21日（土）～22日（日）

（連絡先）実行委員長 任 田 敏 夫

会 場：熱 海「大月ホテル」

（勤）03-5410-9123 （自）048-255-8758

ヤング・リーダーズ・フォーラム日本参加青年募集!

I 概 要

① 目 的

21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい事業によって招へいされる「世界青年の船」事業及び「東南アジア青年の船」事業の20か国の外国人既参加青年と共に、専門分野に分かれて討議を行うものである。それぞれの分野における各国の情報を交換すると共に、21世紀の各分野のあり方、青年リーダーとしての役割等を討議し、今後の活動に資すると共に、討議結果を広く発表していく。

② 主 催

内閣府、(財)青少年国際交流推進センター

③ 日本青年の参加期間 (ヤング・リーダーズ・フォーラム)

平成16年10月9日(金)から同年10月12日(火)までの3泊4日間

④ 会 場

独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター

⑤ 参 加 者

ア. 日本参加青年 20名

イ. 外国参加青年 20か国、80名 (ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、インドネシア共和国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、ミャンマー連邦、シンガポール共和国、フィリピン共和国、タイ王国、ベトナム社会主義共和国、バーレーン王国、ケニア共和国、ニュー・ジーランド、ノルウェー王国、ヘルー共和国、スペイン、トンガ王国、アラブ首長国連邦、アメリカ合衆国、ベネズエラ・ボリバル共和国)

⑥ 日本参加者参加プログラム内容

月 日	日 程	備 考
10月8日(金)	招へい外国青年オリエンテーション 「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業 開会式(基調講演等) 歓迎レセプション ※ヤング・リーダーズ・フォーラムの日本参加青年は 希望に応じて参加可(宿泊は実費を申し受けます)	東京都 4コースに分かれる 開発、教育、マネジメント(NPO の組織・運営等)、パブリック・ リレーションズ(広報)
10月9日(土) ～12日(火)	ヤング・リーダーズ・フォーラム オープニング・ランチパーティー、ディスカッション、 所外活動等 日本参加青年修了式	東京都 4コースに分かれる 開発、教育、マネジメント(NPO の組織・運営等)、パブリック・ リレーションズ(広報)

II 募集について

① 日本参加青年の資格要件

日本参加青年の資格要件は次のとおりとする

- ア 内閣府（総理府・総務庁）青年国際交流事業の既参加青年であること
- イ 25歳から39歳までの者であること（平成15年9月19日時点）
- ウ 英語による日常会話以上の能力を有する者であること
- エ 協調性に富み、事業の計画に従って規律ある団体行動ができる者であること
- オ 日本の社会（例、政治・行政・法曹、経済・商業、科学技術、医療、農業、マス・メディア、教育、社会活動、青少年活動など）で活躍しているリーダー層の青年であること
特に以下の4分野のいずれかを専門としているか、深く興味を持っていること

① 開発、② 教育、③ マネジメント（NPOの組織・運営等）、④ パブリック・リレーションズ（広報）

※ 日本でのプログラムにおいて、この4分野をテーマとしたディスカッション・グループが設けられる予定。外国参加青年はテーマ別に各国1名ずつ供出し4つのグループを構成する。日本参加青年はヤング・リーダーズ・フォーラムで専攻テーマに応じてそれぞれのグループに所属する。

※ 再参加は妨げるものではないが、新しい参加者を優先する。

② 参加費用

(1) 内閣府の負担する経費

プログラム参加費、宿泊及び食事代（3泊4日）

※ 東京都外在住の参加者については規定に基づいた旅費をお支払いします

※ 勤務地が東京の方はこれに該当しません

(2) 日本参加青年の負担する経費

期間中における疾病又は傷害の治療費用、旅行保険、小遣いその他の個人の用に必要な経費

③ 応募

(1) 提出書類

① 申込書（下記問い合わせ先よりお取り寄せ下さい）

② 作文（800～1,000字程度） テーマ：「希望するコースで取り組みたいこと」

(2) 募集締切り 平成16年7月30日（金）必着

(3) 結果のお知らせ 平成16年8月中旬にご連絡します

④ 書類提出先及び問合せ先

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-35-14 東京海苔会館 6階

財青少年国際交流推進センター 担当：大橋玲子、本田温子

※封筒に「ヤング・リーダーズ・フォーラム応募用紙在中」と明記すること

Phone: 03-3249-0767 / Fax: 03-3639-2436

「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業全体日程

10月7日 招へい青年到着、10月8日～13日 東京プログラム、10月14日～17日 地方プログラム

10月18日 会議準備、10月19日 青年賢人会議、10月20日 招へい青年帰国

視覚障害者のためのカナダ・サマーキャンプ

第10回「世界青年の船」事業参加青年 齋藤 珠恵

かつて旅行会社に勤務して入社間もない頃、私が企画を始めた盲学校の生徒を対象としたカナダ・サマーキャンプが今年で第10回目を迎えました。筑波大学附属盲学校の教頭を務められていた塩谷先生の御協力と、社会福祉法人視覚障害者支援総合センターの後援をいただいて継続しているホームステイと文化交流、そして自然体験を中心とした内容の事業です。これまでの延べ参加人数も100名を超え、視覚障害を持つ人たちの中でも知られてくるようになりました。

私は当初、旅行会社の社員としてこの企画を始めたのですが、「世界青年の船」事業への参加をきっかけとして旅行会社を退職した今は、コーディネーターとしてプログラム作りを続けています。9日間の日程を考え、現地のボランティアの調整をし、パンフレットを作成。出発前には、参加者と御家族への説明会を行い、そして夏には仕事の休みを取ってキャンプに同行し、グループリーダーとして様々な調整や通訳、そして身の回りのお世話などをさせていただいています。

近年は、このプログラム作りに「世界青年の船」



オレゴンの大自然の中でラフティングを体験

事業のメンバーのネットワークが大いに活躍しています。現地の情報を集めてもらったり、様々な施設を紹介してもらったり、ボランティアとして見学やショッピングのお手伝いに来てもらったり…。また、ある年にはカナダの先住民の村に住む11回と12回の既参加青年（KatsitsaとTiffany）の家を訪問し、彼女たちの先住民の文化を肌で感じるような体験もさせてもらいました。事業参加内定者で、まだ「世界青年の船」事業に参加をしていない人が、既参加青年の紹介でこのプログラムを知り、仲間を連れて手引きのボランティアに来てくれたこともあります。このようにして、現地の人たちと交流したことが刺激となって、海外留学に踏み切った、という報告を何人もの参加者から受けているのは嬉しい限りです。

最後に。毎年プログラム実施に当たって、ボランティア同行者を募集しています。何らかの形で御協力いただける方、興味のある方がいらっしゃいましたら御連絡いただければ幸いです。

（連絡先：tamae@iyeo.or.jp）

SWY15のDavidが「世界青年の船」参加前だった▼にもかかわらず、ボランティアに来てくれました



（博物館見学）

**「東京、愛はいいよー! IYEO」
平成16年度関東ブロック大会の御案内
6月26日(土)～27日(日)**

東京都 IYEO では、「関東ブロック大会」を3月に OPEN したばかりの東京スポーツ文化館にて行います。テーマはずばり、「東京 愛はいいよー! IYEO」。過去2年間の活動の集大成とした本大会へ、是非「愛 or (出) 会い」の素晴らしさを体感しに来て下さい!!

日 時：平成16年6月26日(土) 13:30～27日(日) 12:00

会 場：東京スポーツ文化館（地下鉄/JR 新木場駅）

<http://www.ys-tokyobay.co.jp>

プログラム：《26日》分科会 ①ワークショップ^o（世界がもし100人の村だったらを体感）
②ダンス教室（南米のサルサを踊って、異文化を体験）
③映画上映（中東和平を描いた話題作を再上映）

懇親会（アイスブレイク&帰国報告）

《27日》Global Navigations（コミュニケーションゲーム）

→英語を交えながらのワークショップで仲間を増やしましょう♪

参加費：

	参加形態	一般	学生
1	全日程 1泊2食付	9,800円	8,800円
2	26日のみ 宿泊×懇親会○	4,000円	
3	27日のみ 宿泊×食事×	1,000円	

☆シングル・ツインをご希望の方は+1,600円となります。

☆御入金後の取り消しは施設規定のキャンセル料が発生します。

お申込み：お申込書に必要事項を記入の上、東京都 IYEO 宛に郵送または FAX にてお申込みください。ホームページからのお申込みも可能です。
但し、入金をもって申込み確定とさせていただきます。

お問合せ：東京都 IYEO 事務局 関東ブロック大会実行委員会宛（担当：川嶋）
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 日本青年国際交流機構内
電話/FAX 03-3389-7686（國分） E-mail: lovetokyoieo@hotmail.com

☆詳細はホームページをご覧ください。<http://www.iyeo.or.jp/tokyo/>

平成 15 年度青少年国際交流を考える集い（ブロック大会）開催日程

平成 15 年度ブロック大会の開催日程は以下の通りです。詳細は開催時期に合わせてマクロコズム誌上または Bulletin Board でお知らせしていく予定です。

ブロック	開催府県	開催日	ブロック構成都道府県
北海道・東北	山形県	10月23日～24日	北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
関東	東京都	6月26日～27日	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
北信越	福井県	8月21日～22日	新潟・長野・富山・石川・福井
東海	愛知県	10月23日～24日	静岡・愛知・岐阜・三重
近畿	和歌山県	10月2日～3日	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山
中国	鳥取県	8月21日～22日	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四国	高知県	(11月下旬開催予定)	徳島・香川・愛媛・高知
九州	佐賀県	11月6日～7日 (全国大会と同時開催)	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

編集後記

まず始めに5月号の発行が、大変遅れましたことをお詫びいたします。

5月は、内閣府青年国際交流事業参加青年の選

考が行われました。今年も元気な仲間が登場してくれることでしょう。青年にとって国際交流体験が与えてくれる影響は大きなものがあります。

*本誌の年間講読をご希望の方は、(財)青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申し込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM (マクロコズム) 5月号 Vol.58 2004年5月31日発行 (隔月発行)

編集：マクロコズム編集委員会

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail hq@iyeo.or.jp

URL <http://www.centerye.org>

<http://www.iyeo.or.jp> (IYEO)

編集協力：内閣府政策統括官

(総合企画調整担当)

日本青年国際交流機構

定 価：198円 (本体189円)

印刷所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

成果発表



▲ 障害者分野



高齢者分野 ▼



青少年分野 ▲

評価会



▲ 進行を務める
重里参事官補佐



SEE YOU AGAIN!
▼ (盲導犬ルナ)

～「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議～ (2004. 2. 8～2. 12)



▲ 青少年労働省のディレクターとともに

▼ SWY 16回の参加青年とともに音楽ワークショップに参加



▼ OYAシアターの練習場所で見学及び交流



テメケ地区の識字学校を訪問し
楽器をプレゼント



▼ 子供達によるHIVの恐ろしさを訴える寸劇を見学



孤児院に楽器とチョコレート
をプレゼント

タンザニア

1973年2月14日。一隻の大型客船が横浜を出航しました。歴史的な日本初の世界一周クルーズへの出発です。それが、初代「にっぽん丸」。現在の「にっぽん丸」はそれから数えて3代目です。この間、私たちは、日本のクルーズの先駆者として、新しいクルーズや様々なサービスを開発してきました。例えば、日本船初めての展望浴場などは、ほんの一例。また、私たちの長い経験の集大成である独自の船内プログラムが、他の日本客船全てのお手本になっていたりもします。ところで豪華客船でのクルーズと言うと、リタイア後の老夫婦がのんびりと旅をされているイメージをお持ちではないでしょうか。でも、「にっぽん丸」に乗船してこられるお客様は、驚く程アクティブな方が多いのです。いや、アクティブになられると言った方が正しいのかもしれませんが。これまでの人生になかった新しい体験を、船の上で得た新しい仲間達と一緒に貪欲に吸収されるのです。自ら進んで何か新しいものを得ようとする気持ちを冒険と言うとすれば、冒険には年齢や性別なんて関係ない、私たちは、そんな皆さんの想いを満足させることを一番大切に考えています。そして私たち自身も、お客様に負けないうらいに、いつも新しい事に挑戦して行こうと思っています。これまでも、ずっとそうして来たように。

冒険する生活を選びました。

冒険する生活
にっぽん丸



にっぽん丸は、米国公衆衛生局(USPH)による船舶衛生検査において、3年連続で日本船最高得点を獲得しました。

クルーズデスク フリーダイヤル
0120-791-211

 商船三井客船
<http://www.mopas.co.jp>

美しい時代へ — 東急グループ



旅も楽しめる合宿にしたい。



急に1週間の全国出張になった。

ひとりひとりに、満点旅行。

ONE
to
ONE



家族水入らずで楽しめるプランを。



北から南まで温泉三昧したい。

商品力、サービス力、情報力、3つのパワーで、
あなたの旅をさらに快適に。

どんな旅でも、東急観光はすべてのお客様に満足
していただきたいと願っています。そのために、オリ
ジナル旅行や団体旅行など、多彩な商品をご用意。
IT活用による最新情報入手から24時間予約まで、
リアルタイムな体制でお応えします。そして旅を熟知
した私たちのひとりひとりが、お客様の旅を親身に
なって考えます。



国土交通大臣登録旅行業第38号
日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
<http://www.tokyukanko.com>
<http://tour.tokyu.com>